

## 社会にかかわる児童を育てる社会科授業の研究

日高市立高根小学校 有山 和宏

### 1. はじめに

#### (1)これから訪れる予測困難な時代

子ども達が社会の担い手になるころは、AIの急速な発達やグローバリズムの進展、少子高齢化による人口減少が社会に及ぼす影響など、誰も経験したことの無いことが多い事から、「予測が困難な時代（平成29年告示小学校学習指導要領解説社会編）」といわれている。

特に人口減少による税収減から行政の公共サービスの縮小が進めば、社会に見られる問題の解決を行政だけに頼ることはできず、市民に求められる役割も大きくなるといえる。そう考えると、子ども達が、将来、社会にかかわれるように、社会に見られる問題を解決する力を育てることが必要だといえる。

#### (2)答えをつくる力と「質の異なる吟味」

筆者はその必要な力を、「社会に見られる問題の答えを他者をつくる力」だと考える。「他者をつくる」としたのは、社会に見られる問題の多くは、個人で解決できない問題であり、他者と問題の答えを考えることで、様々な考え方を出し合うことができ、よりよい答えをつくることにつながると考えるからである。桐谷正信は、現代社会を「さまざまな社会問題が山積し、それらが表出している状態にある『正解が存在しない諸問題が氾濫している社会』」であるとその問題性を指摘し、解決策として「正解」が示されるのを待つのではなく、市民が「協働的に」「新たな正解」を創出する必要性を主張している。このことから、子ども達に今後必要とされる力は、習得した知識や情報を活用して他者と一緒に問題の解決策（答え）をつくる力であることがうかがえる。

### 2. 研究の目的と方法

#### (1)研究の目的

問題の答えを他者をつくる力は、これから訪れ

る予測困難な時代を生きる子ども達が、将来、社会に見られる問題の解決にかかわるときに必要な力である。

では、よりよい答えを他者をつくる力を育てる社会科授業とは、どのような理論的裏付けに基づいて展開すればよいのか。本研究は、「社会にかかわる児童を育てる社会科授業の研究」と主題を設定し、子ども達が、将来、社会の問題にかかわるために必要な力である「よりよい答えを他者をつくる力」を育成する社会科授業のあり方と、実践を通してその成果と課題を明らかにすることを目的とする。

社会科授業の構想にあたり、よりよい答えを他者をつくるための主要な手立てとして、「質の異なる吟味」を学習過程に位置付ける。社会に見られる問題のよりよい答えをつくる先行実践は既に行われているが、質の異なる吟味を重ねて解決策を改善する学習過程は見当たらないからである。

吟味とは、「物事を詳しく調べて選ぶこと」で、目的と観点に沿って詳しく調べ、調べたものを選び分けたり抽出したりすることを意味する。

吟味は、自分の知識を再構成し、理解を深めることにもつながる。また、他者で行うことで、一つの物に対して複数の視点から調べることができる。しかし、よりよい答えという新たな価値の創出につなげるには、一度の吟味では不十分である。このように考えると、他者とよりよい答えをつくるには、吟味を重ねることが欠かせないといえる。

なお、「よりよい答え」、「他者をつくる」、「質の異なる吟味を重ねること」を以下のように定義する。

#### ①「よりよい答え」とは…

よりよい答えとは、妥当性の高い解決策である。「妥当」とは、「よくあてはまること。適切であること」を意味するが、妥当性の高い解決策は、必ずしもベストな解決策とは限らない。なぜなら社会に

見られる問題が複雑であれば、万人にメリットのある解決策の創出は難しいからである。したがって、よりよい答え＝妥当性の高い解決策は、ベストに近いベターな解決策ということができる。

②「他者をつくる」とは…

価値観や見方の異なる他者(友達)と互いの考えを出し合い、意見の長所や短所を検討し合うなかで、みんなが納得のいくものをつくること、また、答えをみんなで作るために関わり合うことを「他者をつくる」とした。

③「質の異なる吟味を重ねる」とは…

よりよい答えは、目的や形態(個人か複数か)、観点の異なる吟味を繰り返す中でつくられると考える。そこで、性質の違う吟味を学習過程の中で繰り返していくことを「質の異なる吟味を重ねる」とした。

(2)研究の方法

社会に見られる問題のよりよい答えをつくるために必要な要素を明らかにするため、まず唐木清志の社会参加学習論の分析を行う。次に、筆者が解決策をつくる学習だと判断した先行実践を分析し、質の異なる吟味の観点を検討する。以上の分析をふまえ、「吟味を重ね、よりよい答えを他者をつくる力を育てる学習過程」を構想する。そして、社会に見られる問題を教材化した単元開発を行う。最後に、構想した学習過程と開発単元を用いて授業実践を行い、成果と課題を明らかにする。

3. 研究内容

(1)答えをつくる力を育てる学習の分析

唐木清志の社会参加学習論は、科学的社会認識、意思決定力、社会的実践力を総合した資質・能力から成る社会形成力の育成をねらいとし、「I 問題把握」「II 問題分析」「III 意思決定」「IV 提案・参加」という学習過程をとる。唐木は、社会的実践力の育成と「IV 提案・参加」を重視するのに対し、筆者は将来の社会参加にむけて、問題の答えを他者をつくる力の育成と「III 意思決定」を重視する。社会参加に必要なのは、提案・参加よりも、行為を規定する解決策の質の高さだと考えたからである。重視する点は異なるが、唐木のいう「社会的課題の解決に向けて社会参加できる市民の育成」と筆者の考える「将来、社会にかかわるように、社会に見られる問題の答えをつくる力の育成」に重なる部分があると考えた。そこで、

唐木の学習論を学習過程を構想する際のベースとした。

なお、よりよい答えをつくる要素について、唐木の論文や文献をもとに分析を進めると、意思決定において、「望ましい解決策の構想」「解決策の有効性の分析」「現実的な決定」の三点があることが導き出された。そこで、よりよい答えをつくる過程を考える際、上記の三点を組み込むことにした。

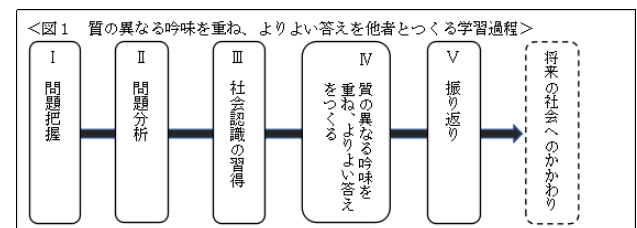
(2)質の異なる吟味の検討

妥当性の高い解決策をつくるには、解決策を見直し、改善する必要があるが、唐木の学習論には、解決策の妥当性を高めるための学習活動が位置付けられていなかった。そこで、解決策の妥当性を高めるために、解決策を見直す「吟味」を学習過程に位置づけた。そして、先述の意志決定の分析をもとに、吟味の目的に「分析」「改善」「決定」の三類型があることを明らかにし、吟味の形態として個人と集団の二形態を考えた。

表1	質の異なる吟味
1	吟味の目的
A	「分析のための吟味」 解決策(案)に含まれる問題点や課題を見つける
B	「改善のための吟味」 解決策(案)としての質を高める
C	「決定のための吟味」 解決策(案)としての妥当性の有無を判断する
2	吟味の形態
a	個人での吟味
b	集団での吟味
3	吟味の観点
(1)	必要性…解決する必要がどのくらいあるか。
(2)	有効性…課題解決の効果がどのくらい高いか。
(3)	実現可能性…財源・資源、地理的環境等をふまえた上で、実現できるか。
(4)	公共性…どんな立場の人たちの役に立つのか。

(3)質の異なる吟味を重ねて、他者とよりよい答えをつくる学習過程の構想

先行研究や先行実践の分析をふまえ、質の異なる吟味を重ねて、他者とよりよい答えをつくる学習過程を以下のように構想した。



- 解決案と解決策は、次のように区別して使用した。
- ・解決案…解決策としてつくりあげるための元となる最初の考え。
  - ・解決策…質の異なる吟味を重ねてつくりあげた最終的な考え

学習過程と主な学習内容は以下の表2に示す。なお、吟味の目的・形態・観点の記号と数字は、上記の「表1 質の異なる吟味」に対応している。

表2 社会に見られる問題の答えを他者とつくる学習過程と主な学習活動

段階	学習過程	吟味の目的・形態・観点	学習活動
把握 問題	1 社会的事象との出会い		・社会的事象について知る。
	2 問題の把握		・社会的事象と自分とのつながりに気づき、社会に見られる問題としてつかむ。
問題 分析	3 社会に見られる問題の個人分析		・社会に見られる問題の原因を個人で分析する。 ・個人分析をもとにクラスで話し合う。問題の原因を把握し、解決策をつくるまでの見通しをもつ。 ・追究したい原因を選ぶ。
社会 認識 の 習得	4 問題解決にかかわる社会認識の習得		・解決策をつくる基盤となる社会認識を習得する。
質 の 異 な る 吟 味 を 重 ね 、 よ り よ い 答 え を つ く る	5 個人による既存の政策分析	Aa (1) (2) (4)	・既存の政策を個人で評価し、評価理由を根拠にクラスで話し合い、政策の問題点や課題を見つける。
	6 個人による解決案づくり	Ba (1) (2) (3) (4)	・明らかになった問題点や課題を解消する解決案を、3で選んだ原因をふまえて個人で考える。
	7 グループによる吟味を重ねる解決案の決定	Cb (1) (2) (3) (4)	・3で選んだ原因ごとにグループをつくる。 ・グループで吟味を重ねる解決案を決定する。
	8 グループによる解決案の分析	Ab (1) (2) (3) (4)	・解決案の妥当性を高め、質の備わったものにするためにグループで吟味し、案の問題点や課題を見つける。
	9 グループによる解決案の改善	Bb (1) (2) (3) (4) Cb (1) (2) (3) (4)	・解決案の問題点や課題の解決方法を、グループで検討し決定する。「改善→決定→分析」を繰り返し、解決案としての妥当性と質を高める。
	10 外部講師による助言		・解決策としての妥当性を更に高めるために、外部講師に助言をもらう。
	11 グループによる解決案の精緻化	Bb (1) (2) (3) (4)	・外部講師からの助言や指摘をうけ、問題点や課題を吟味し、解決案を精緻化する。
	12 解決策の完成		・グループの解決策を完成させる。
	13 個人によるよりよい解決策の決定	Aa (1) (2) (3) (4) Ca (1) (2) (3) (4)	・各グループでつくられた解決策を吟味し、その中から最も妥当性の高いものを個人で選ぶ。
	返り 振り	14 学習のまとめ	

#### (4)単元づくりに向けて

社会に見られる問題の答えを他者とつくる力を育てる単元づくりにあたり、次の視点に基づいて構想した。

##### ①身近な地域社会に見られる問題

自分たちの生活とのつながりや問題の影響が実感でき、問題意識をもって学習に臨めるか。

##### ②正解のない現在進行形の問題

既に結論が出ている問題ではなく、既存の知識で解決できない問題、実社会で大人たちも考えている社会に見られる正解のない問題か。

##### ③学習指導要領との関連

教育課程などを考慮し、学習指導要領の内容と関連づけて取り組めるものか。

特に学習指導要領の内容は、学習を通して理解させたい知識であり、社会認識の習得とも関連する。そこで、社会に見られる問題の答えをつくるのに必要な知識を習得する過程を位置づける。

上記の視点に基づいて単元を構想するにあたり、学習指導要領の「内容構成の改善」の教育内容に言及している部分に着目した。ここには、「予測が困難な時代」という社会状況と持続可能な社会づくりを

ふまえた学習指導要領の改訂の経緯や方針，具体的な改善事項が反映されていると考えたからである。当該箇所は，以下の通りである。

・・・政治の働きへの関心を高めるよう教育内容を見直すとともに，自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等に関する指導の充実，少子高齢化等による地域社会の変化や情報化に伴う生活や産業の変化に関する教育内容を見直すなどの改善を行った（下線部，筆者）。

特に下線部分の人口減少と情報化の発達は，現在進行中の事象で自分たちの生活にもたらす影響があることから，問題の解決策が構想されているものである。筆者は，地域に見られる問題に親和性の高い人口減少に視点を絞り，教材研究を行った。

教材研究の結果，人口減少によって引き起こされる問題の多くが，地方公共団体で解決に向けた検討がなされており，第6学年の地方政治の学習との関連が多いことが見えてきた。

これらのことから，「人口減少」を市の問題として取り上げ，第6学年の「我が国の政治の働き」と関連付け，単元「日高市の人口減少対策プロジェクトを考えよう」を開発した。児童が住む日高市で実際に進行している人口減少という現象と市政に及ぼす影響をつかみ（問題把握），その原因と解決の見通しをもち（問題分析），市が取り組んでいる人口減少対策事業の概要と政策立案の過程を理解するとともに（社会認識の習得），市の事業の問題点や課題をとらえ，その問題点や課題を解決し，人口減少の抑止に

資するよりよい解決策をつくる学習（＝質の異なる吟味を重ね，よりよい答えを他者とつくる社会科授業）を展開する。

#### 4. 検証授業

##### (1)単元名：「日高市の人口減少対策プロジェクトを考えよう」

3で構想した質の異なる吟味を重ね，よりよい答えを他者とつくる力を育成する学習過程に基づいて検証授業を行った。

##### (2)単元の評価規準

社会的事象についての知識及び技能	社会的事象についての思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日高市では，人口減少が及ぼす影響の大きさから，人々の生活の安定を守り，向上を図るために政治が大きな働きをしていることを理解している。</li> <li>・日高市の人口減少対策を考えるにあたり，市役所の方からの聞き取りや統計資料などを活用して調べ，必要な情報を集めたり，読み取ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日高市の人口減少問題の原因や対策事業の課題を分析し，問題を解決するよりよい解決策をグループでの話し合いや吟味を重ねる中で検討し，表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に見られる人口減少問題に自ら問いをもち，問題のよりよい解決策の完成に向けて活動する中で，社会に関わる意味や必要性に気づき，これからの自分が社会とどのようなかかわり方をするか考えることができる。</li> </ul>

#### (3)学習過程と主な学習活動の概要

過程	吟味の形態・観点	「日高市の人口減少対策プロジェクトを考えよう」学習内容 数字は授業時数（全14時間）
問題把握	社会的事象との出会い ・社会的事象について知る。	① 日高市の人口と税収の推移を示すグラフから，生産年齢人口の減少が税収に影響することを読み取る。税収減が公共サービスの質にどんな影響を与え，市民の生活が変わるのかを考え，コンセプトマップにまとめる。人口減少が自分たちの生活に影響を及ぼす社会問題であることをつかむ。
問題分析	3 社会に見られる問題の個人分析 ・社会に見られる問題の原因を個人で分析する。（出生率向上，子育て支援，定住促進，転入促進・転出抑制） ・分析したことをもとにクラスで話し合う。解決策をつくりあげるまでの見通しをもつ。 ・追究したい原因を選ぶ。	② 日高市の人口の増減を示すグラフから，人口減少の原因（自然減・社会減）をつかむとともに，市で人口減少対策事業が実施されていることを知る。市の人口減少対策事業を調べ，各事業にどんなねらいがあるのかを分析する。 学習問題「日高市の人口減少対策プロジェクトを考えよう」をつかみ，自分が人口減少対策として一番必要だと思うねらいを選ぶ。
社会認識の習得	4 社会的事象にかかわる社会認識の習得 ・解決案をつくる基盤となる社会認識を習得する。	③ 子育て支援総合センターの設立計画から実現までの過程や市役所の働きを調べ，解決案を考えるのに必要な視点（必要性，有効性，実現可能性，公共性）を理解する。市民が市政に参加する様々な制度があることを知る。 ④ 日高市役所職員から，市の人口減少対策事業を聞く。

吟味を重ねよりよい解決策をつくる	5 既存の政策の個人分析 ・既存の事業を個人で評価し、評価理由についてクラスで話し合う。 ・話し合いをもとに、政策の問題点や課題を明らかにする。	A a (1)(2) (4)	④ 日高市役所職員の話をもとに事業評価を行う。 ⑤ 事業評価の理由をもとに、事業の問題点や課題をクラスで話し合う。市民へのアンケートや市の事業一覧、他市の事業一覧をもとに、日高市の人口減少対策事業の問題点や課題を分析する。
	6 個人による解決案づくり ・問題点や課題を解消する解決案を個人で考える。	B a (1)(2) (3)(4)	⑥ 人口減少対策事業の問題点や課題を解消し、第2時で選択した人口減少対策のねらいとして有効な解決案を個人で考える。
	7 吟味を重ねる解決案のグループによる決定 ・グループで吟味を重ねる解決案を決定する。	C b (1)(2) (3)(4)	⑦ 人口減少対策事業の中で、第2時に個人で決めた追究したいねらい（出生率向上、子育て支援、定住促進、転入促進・転出抑制）ごとにグループを編成し、グループで吟味を重ねる解決案を1つ決める。
	8 グループによる解決案の分析 ・解決案の問題点や課題を分析する。	A b (1)(2) (3)(4)	⑧ 解決案をよりよくするために検討が必要な問題点や課題を分析して、付箋に書きだす。
	9 グループによる解決案の改善 ・解決案の問題点や課題を解消するために、改善内容を検討する。 ・仮の解決策をまとめる。	B b (1)(2) (3)(4)	⑨ 解決案の改善に向けて、資料で調べたり、考えたりしたことをもとに話し合う。 ⑩ 市役所の方に解決案を説明するために、これまでの話し合いをもとにして、仮の解決策をまとめる。
	10 外部講師による助言 ・仮の解決策を説明し、外部講師に助言をいただく。		⑪ 外部講師にグループの仮の解決策を説明し、助言をいただく。いただいた助言をもとにグループで話し合い、解決策を精緻化し妥当性を高める。
	11 グループによる解決案の精緻化 ・未解消の問題点や課題などを検討し、解決策として完成させる。	B b (1)(2) (3)(4)	⑫ これまでの話し合いで未検討の問題点や課題、外部講師からの助言や指摘について、グループで検討するとともに、話し合いの内容をまとめ、解決策を完成させる。
	13 妥当性の高い解決策の個人選択 ・各グループの解決策を吟味し、最も妥当性の高いものを個人で選ぶ。	C a (1)(2) (3)(4)	⑬ 各グループで考えた日高市の人口減少の解決策を個人で評価するとともに、最もよいものを1つ選ぶ。選んだ事業と理由をクラス全体で交流する。
14 学習の振り返り ・学習の振り返りを行う。		⑭ 解決策をつくるまでに考えたことや注意したこと等をグループで振り返り、ワークシートにまとめる。	

#### (4)検証授業の概要

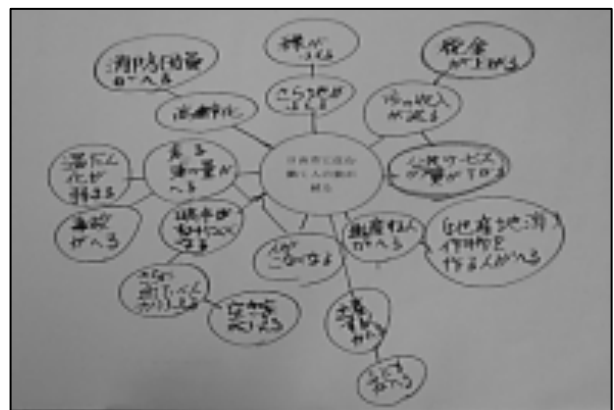
##### ①問題把握・問題分析の過程（第1～2時）

第1時は、子ども達の目に見えにくい人口減少とその問題性について、市の事業である『遠足の聖地』プロジェクト推進計画」を事例につかませることにした。

「日高市遠足の聖地プロジェクト」として扱われている巾着田周辺は、市内の代表的な観光地であり、子ども達が学校の遠足等で行くなじみ深い場所である。身近で親しみやすい事例から入り、日高市の人口減少対策事業に関心を持たせることができた。その後、日高市の人口減少の実態と、人口減少と市の財政との関係について、統計資料を中心につかませ、問題意識を高めていった。児童の中には、人口減少をクラス数や学校の児童数の減少と関連付けてとらえた発言が見られた。

その後、公共サービスの質の低下を含めて、人口減少によって自分たちの生活にどのような

変化が起こるのかをコンセプトマップに書き出し、具体的に考えた。



コンセプトマップの中心に、「日高市の人口が減少するとどのような事が起こるか」を位置づけ、これに関連することを次々に書き足し、考えを広げていけるようにした。そして、個人で書き出したものをもとに、人口減少が進んだ後の生活の変化について全体で話し合った。

第1時の学習後の子ども達の感想に以下のよう記述が見られたことから、身近な事例からの導入とコンセプトマップの活用は、人口減少が引き起こす問題性に気付かせるとともに解決の必要性を感じさせるのに有効に働いたと考えられる。

<問題意識が高まり、解決に向けたかかわり方まで考えていることが見られる記述>

- ・これからどんどん少子高齢化が進み働く人も少なくなると公共サービスの質が下がり生活が不便になってしまうから税金などで国にお金を出したい。

<将来への不安や問題性を意識し、問題意識の高まりが見られる記述>

- ・税金が下がってしまうということは人口が減っていることと公共サービスの質が下がってしまうことが分かる。これから生きていく社会がどうなるのかと思った。

第2時は、問題分析の過程である。人口減少の原因分析と、人口減少を解決するための市の取り組みを調べた。

子ども達は、人口減少の原因を統計資料を使って分析し、人口減少の原因が出生数より死亡者数の方が多くなる「自然減」と市外への転出が市内への転入より多くなる「社会減」であることを明らかにした。その後、「人口減少への対策が市で行われているのか」という疑問をもつ児童も現れた。次に日高市の人口減少対策事業のねらいが自然減と社会減のどちらなのか、事業内容から分析した。全体での話し合いでは、自然減と社会減の両方の対策に取り組んでいること、自然減対策では「産む人を助ける事業」「子育てを助ける事業」、社会減対策では「市内に引っ越してくる人を増やし、市外に引っ越して出る人をおさえる事業」「住み続ける人を増やす事業」とさらに細かく分けられることを明らかにしていった。

その後、人口増減の推移を示す統計資料を再度見返し、事業と人口増加の関係を再検討した。その結果、「これらの事業の成果がまだ人口増加に大きくつながっていないのでは」「まだ事業が有効に機能していないのでは」という結論に至った。こうした話し合いを経て、学習問題「日高市の人口減少対策プロジェクトを考えよう」を設定した。

学習問題を設定した後、「①プロジェクトの立て方を知る」、「②情報収集と分析」、「③案を考える」、「④完成」という流れを子ども達と構成した。

そして、人口減少対策としてもっとも重要だと

思うものを「産む人を助ける」「子育てを助ける」「市内に引っ越してくる人を増やし、市外に引っ越して出る人をおさえる」「住み続ける人を増やす」の4つの中から1つ選択させた。「住み続ける人を増やすのが一番大事だ」と発言しながら選ぶ子どももいた。

## ②社会認識の習得過程（第3～4時）

第3時は、解決策のつくり方を具体的な事例を通して学習した。事例として市の子育て総合支援センター「ぬくぬく」設立を事例に、計画から実施までの過程、計画時に検討する観点について調べた。その中で、事業の構想や計画の改善には見直し（吟味）が必要であること、吟味する際の4つの観点と意味をつかませた。また、「なぜ市民が人口減少対策を考える必要があるのか」という点について、市民参加条例や開催された会議などを事例として示し、市民が自分たちの市政に関わる制度があり、市政をよりよくすることに参加できることをとらえさせた。これによって、選挙や寄付以外にも市民が市政に参加する方法があることをつかませることができた。

第4時は、市役所の方の話を聞き、実際につくられた市の事業を知るとともに、次時の市の事業分析に向けた評価を行った。市役所の方にきていただいたのは、実際に作成に携わった市役所の方に聞くことで理解が深まり、より有意義な評価ができると考えたためである。これまで学習した内容の理解を促せるよう、前半は職員の話全員で聞き、後半は第2時に選んだ「今後考えていきたいもの」と関係する事業担当者との所に行き、質疑応答を行うことにした。



市役所職員からの話は、子ども達の理解を深める点で、有効であった。そのことが、第4時が終わった後の子ども達の感想からうかがえる。

<専門的な見地からの話を聞き、社会認識が深まったことが見られる記述>

・第3子が産まれるのが、県内で一番多いことがわかった。でも、第3子が産まれることが多いのに、子どもの数が減っているということは、子どもを産まない人も多いということもわかった。障害のある子が生まれた場合、市からではなく、国や県から、お母さんへ特別な補助がでるということが、質問してわかった。

<市役所の方の話を聞き、かかわり方を考えていることが見られる記述>

・日高市を出ていく人がいることはとてもざんねんだけど、出ていかないように工夫していることを知ってすごいなと思いました。…(中略) 日高市に住み続けるために市の人たちも工夫しているのでわたしたちも日高市のよさをいろいろの人に広めていこうと思いました。…(中略)

事業評価を念頭に置いて聞くことで、事業内容や効果に対する関心も高まっていった子がいることも感想からうかがえる。実際の事業担当者から話を聞くことは、子ども達が、市役所が人口減少対策を進めていることや市政の役割などの社会認識を深める点で有効だった。

### ③質の異なる吟味を重ね、他者とよりよい答えをつくる過程 (第5～14時)

第5時は、前時に聞いた話やメモ、振り返りをもとに事業評価を行った。子ども達は、4つの観点についてそれぞれ◎・○・△の3段階で評価し、その理由を記述した。評価をもとにクラス全体で話し合ったところ、「どの事業も完璧ということではなく、事業を有効にするための問題点や課題が何かある」ということが確認できた。子ども達は「日高市の事業をよりよくするために、どんな問題点や課題があるのか」ということに思考の方向性が定まった。そして、市の事業の分析の前に、まず分析の方法と吟味の4つの観点を確認し、市の事業分析を行った。

分析方法は、市の事業の特徴をつかむこと、他市の事業と比較して考えること、市民の声から、市民の願いを読み取ることを確認した。吟味の観点は「不要なものや必要なものはないか(必要性)」「効果はあるのか(有効性)」「どんな人たちに役立つのか(公共性)」を示した。

以下に示すのは、子ども達が分析して導き出した市の事業の問題点や課題の一部である。

<市の事業の独自性に関する分析>

・他の市と同じか似ているものが多いから、日高独自のものをつくったほうがいいと思う。

<事業の効果(有効性)に関する分析>

・H市では、0さいの子にクーポン券を五万円分支給していて日高市は3人目以上なので1人目からしていった方がいいと思います。

第6時は、前時に抽出した問題点や課題を解消するよりよい解決案を個人で考えた。市の事業の問題点と課題、それらを改善するための方向性を確認した後、解決案を考えていった。

解決案は、ワークシートにまとめた。ワークシートには、自分が選んだ「人口減少対策のねらい(出生率向上、子育て支援、転入促進・転出抑制、定住促進の中から選択)」、「解決案の名前」、解決の必要性を示す「解決したい市の事業の問題点や課題」、よりよい答えをつくる中心となる「解決案の内容」、考えた解決案の有効性を意味する「予想される効果」、実現可能性につながる「実行に必要なもの・こと」、グループでよりよい答えにするための課題につながると考えて設けた「解決案の実行によって起こる新たな課題」という項目を設けた。

子ども達は、市の事業の問題点や課題、改善の方向性を意識し、日高市の事業一覧に記された事業内容や利用件数、日高市と他市の事業を比較し直したりして吟味し、解決案づくりを行った。子ども達は、各自が見出した問題点や課題、改善の方向性を意識しながら、考えることができた。

人口減少対策と解決案で解消したい課題が整合しない子、事業の課題は見いだせたが解決案として抽象的なものに留まる子もいたが、全員が自分の案を考えることができた。

人口減少対策のねらい	引こす店増やす	解決案の名前	空き家体験
解決したい日高市の事業の問題点や課題	日高市に空き家バンクがあるが、3つの市と同じような取り組みをしているので、どこでも良くなるでしょう。		
解決案の内容(はたか、何年、どのくらいの頻度、どうする)	隣の空き家バンクを参考にしているようにするために、サイトなどや空き家情報を提供し、最初の1年間は無料で入居することもOK!		
解決案を実行する上での必要なもの・こと	金もOKないしお祝い、安心して空き家を調べられさ。		
解決案を実行する上起こる新たな課題	1年経たないと、賃金も下がります。		

<既存事業を部分的に改善させた解決案。目的と内容が整合している。>



○人口減少対策の ねらい	住み続ける 人を増やす	○解決策の 名称	駅前 保育室
○解決したい児童等の 課題の現状や課題	駅の使用勝手が良くないこと		
○解決策の内容 (目的、効果、ごとの 実施、どうする)	高麗川駅前のマンションの一室に、保育室も併設する 地域の人を募集し、子育て世代がある家庭者に主に見守 もらう。土日に用事がある親が、祖父母にお預けに行かなく ば、お預けで電車で行くことが出来る。		
○解決策を実行すると、 どんな効果があるの か	親が歩いて仕事に集中できる		
○解決策を実行する のに必要なもの のこと	マンション借りるお金 子供をみる人		
○解決策を実行する と起こる新たな問 題	お金の問題		

＜他市の事業を導入した解決策。ただし、課題が人口減少と整合しない＞

最後に、自分の解決策の自己評価を行い、自分の案の長所や短所をふり返った。自己評価を見てみると、解決策の必要性和有効性を高く評価する子が多い一方、「問題点は実現できるかどうかだと思います。」「お金が多く必要なため、実現可能性が低くなってしまふ。」と実現可能性を低く評価する子が目立った。実現可能性が低くなる原因は、費用の見通しが立たないためだと考えられる。このことから、どのくらいの金額が必要なのか、実現までに何を検討する必要があるのかなど、実現可能性に関する話し合いが進められるような予算や用地、立地に関する資料を別途用意したり、子ども達が収集したりする必要があった。

第7時は、それぞれが考えた解決策をもちより、これからグループで吟味を重ねていく解決策を決める活動を行った。第3時に学習した吟味の観点を想起させた。それぞれが必要だと思っていることから解決策をつくっているため、まず必要性を除く三つの観点で考えるようにし、最後に人口減少対策としても最も必要だと思うものはどれかと考えるように伝えた。子ども達は、自分が考えた解決策を説明したのち、吟味シートにかかれた観点を見ながら自分の解決策を書いた付箋を貼りだした。吟味を進める中で、それぞれの案の共通項を見つけたり、関連が見いだせたりしたグループもあった。改善のための吟味を見通して、よりよくする解決策を決めておくように助言した。一時間で吟味を重ねる解決策を決めることができた。

吟味シートの付箋の位置によって、解決策の長所と短所を可視化できたため、子ども達は、吟味の観点を意識して「決定のため」の吟味を行うことができた。吟味シートは解決策の決定するのに有効に機能したと考えられる。

第8時は、吟味を重ねる解決策に含まれる問題点や課題を抽出する「分析のための吟味」を行った。分析にあたり、第6時に解決策をつくった際、実現可能性の評価が低かったため、現実的に考えられるような手立てとして市の事業の予算執行率や予算額が示された表と、市内の用途区域が示された都市計画図に既存の子育て支援施設を示した地図を提示した。



既によりよい解決策をつくった段階で、ある程度の問題点と課題を解決している。そのため、さらに現実的に問題点や課題を見つけることは、子ども達にとって、難しいものだった。問題点や課題を見つけることだけでなく、見つけた問題を解決する難しさ、改善方法を考える難しさにも直面していたことが、以下の第8時の学習の振り返りに表れた。

＜実現に向けて解決すべき問題を考えることが難しいととらえていることが見られる記述＞

- ・色々な問題が出てきて、実現可能性が少し下がってしまいました。次は、予算の使い道や空き家はどうかをもっと深めていきたいです。

＜問題解決のめどが立たない難しさが見られる記述＞

- ・問題点をたくさんだすといろんな問題があるんだなと思いました。費用のこととかで本当に出してもらえるかなどさまざまな問題点ができました。

第9時は、前時にあがった問題点や課題を解決する方法を探したり、考えたりする「改善のための吟味」を行う時間とした。解決の手がかりになるものを探すために、資料を調べたり、互いに話し合いを重ねたりしていった。また、問題の解決方法が固まり、決定した後、その解決方法をとることで新たな問題の発生がないか検討した。どのグループも、第8時終了時から第9時終了時まで、見つけた問題が解決できたこと、問題解決によって新たな問題が見つけられていた。



振り返りを見ると、実現可能性を低く見たり、改善を不安視したりする姿から、問題の改善が進み、前回より前向きに学習に取り組めた様子がうかがえた。

第10時は、次時の市役所の方への説明に向けて、これまで話し合ってきた改善内容を見直したり、保留にしていた問題や課題を再検討したりして、解決案をよりよくするとともに、説明に必要な内容を整理して、「仮の解決策」としてまとめた。

第11時は、第4時に来ていただいた市役所の方々に再びお越しいただいた。そして、子ども達が考えた仮の解決策を説明し、市役所の方々に助言や課題を提示していただいた。子ども達が自分たちの考えをはじめて社会に問う時間である。事前に質問が返ってくることを伝えていたので、「何が聞かれるのだろう」と緊張感を持って臨んでいた。子ども達は、第4時の時に話していただいた内容を思い出し、関連する事業担当の方の所に説明をしに行き、助言をいただいた。子ども達には、助言をいただいたら、それを検討し、解決か保留の判断をするように伝えた。そして、いずれの場合も助言をいただいた方に理由を説明しに行くようにさせた。保留を提示したのは、大人の助言だからとうのみにさせるのではなく、自分たちの解決策の改善に必要な助言か吟味させたかったからである。市役所の方との交流後の振り返りを見ると、市役所の方々との交流は、自分たちが気付かなかったことに気付かせてくれたことに言及しているものが多い。実際、多くのグループで、いただいた助言を吟味し、解決策としての質を高めたり、内容を精緻化したりするための手がかりとすることができた。外部講師からの助言を学習過程に位置付けたことは、よりよい解決策としての質を高める上で有効だった。また、自分たちの考えている解決策の意義を客観的な立場から評価してもらうことで、さらに考えようとする動機付けにつながる面もあったといえる。

<問題や課題が出ることをポジティブに考えているとみられる記述>

・市の人からいろいろプラスになることがあって、また、こういう問題や課題があるんだなって思ったので、広く考えた方がいいんだなって思いました。

<問題や課題が出ることをネガティブに捉えているとみられる記述>

・新たな問題がでてきてまた考えないといけないと思った。話し合っていくうちに問題がなくなっていったので全体的にできばえはよくなりました。もっとよくなるようにしたいです。

第11時が終わるころになると、学習を重ねる中で問題点や課題が出てくることに対してポジティブにとらえる子とネガティブにとらえる子が出てきた。

第12時では前時にいただいた問題点や課題、これまでの話し合いで解決しなかった問題点や課題を吟味したのち、解決策を完成させた。振り返りシートを見てみると、自分たちのつくった解決策の出来栄えを肯定的にとらえる一方で、楽観的にとらえない子ども達の姿も見えてきた。

自分たちの解決策の出来栄えを肯定的にとらえている箇所(波線)

改善の必要性を志向しているのとらえられる箇所(直線)

・きのう、市役所の方に言われた課題や問題点を解決して、…(中略) みんなで話し合っ解決策をまとめることができて、良かったです。市役所の方に保育士さんの確保が難しいと言われたので、実現可能性だけはあまり良くない評価にしました。

・問題や課題はもうなくなったが、他にもきづけていない所があるかもしれないけど、今までやったことがうまく利用できるようにしたので実現可能性を高くしました。

第12時を終えたときの振り返りからは、友達と解決策をよりよくする学習活動や市役所の方々との交流を重ねる中で、実現に堪えうるもの、人口減少対策として必要で有効なもの、多くの人たちの役に立つものを考え続ける力が育ち、「まだまだよくできる」「実現には程遠い」とよりよい答えづくりを追究し続ける子ども達の姿を見ることができた。

第13時は、9グループでそれぞれつくってきた解決策を、内容をもとに事業評価を行い、人口減少対策としてもっともよいものを選ぶ学習である。解決策シートから読み取れないことや見る人の疑問を解消できるように、各グループの説明係が補足説明した。事業評価では、子ども達がこれまでの学習で活用してきた吟味の4観点を生かして各グループの解決策を吟味し、質問していた。事業評価したのち、子ども達が解決策の評価理由を交えながら意見の交流を行った。



第14時は、これまでの学習全体をふり返り、「この日高市の人口減少対策事業づくりで学んだこと」「話し合いでうまくいかなかったときはどんなときか」「うまくいったときのきっかけは何だったか」など、グループごとに交流した。その話し合いをもとに、個人で振り返り、ワークシートに記述した。よりよい答えを他者とつくる力に関連する記述が多く見られた。

<自分が気づけなかった視点に気づき、よりよく考えようとする記述>  
 ・これまでを振り返って、班で話し合っ、問題点や解決策を見つけ、解決してきたつもりだったが、最後の時に、だれかの説明をきいていて「あ、そういうこともあった。」と思ったから、もっと考えなきゃいけなかったと思います。

<よりよい答えをつくることの難しさに気付いた記述>  
 ・市のことについて学んできて、最初に案を出したときは、これは大丈夫かなと思っていました。でもよく考えるといろいろ見えてきて、さらに市役所の人も来てくれてもっと課題や問題点ができて世の中は厳しいなと思いました。… (中略)

これらの記述から共通して読み取れるのは、人口減少をどう抑止するかという正解のない問題に向き合い、よりよい答えを他者と考え続けることを通じて、子ども達がそれぞれ何らかの気づきを得られたという様子である。つくることの難しさ、ちがう視点があること、ちがう視点から考えるとまた違った考えになることなど、よりよい答えを他者とつくる力とは別のものである。しかし、社会に見られる問題のよりよい答えをつくる社会科授業で真剣に考え続けた子たちだからこそ、一人一人が得られたものであると考えられる。

**(5)検証授業の分析の観点と方法**

「よりよい答えを他者とつくる力」の高まりについて、第7～12時の児童の活動から、  
 ①よりよい答えをつくる力の高まり  
 ②他者とつくる力の高まり  
 の2点を分析した。

①は、第7時に決定した解決案から、第12時に完成させた解決策ワークシートまでに、解決策の妥当性の高まりを、解決策ワークシートなどをもとに分析した。

②は、グループで解決策をつくる際の子ども達の発言の内容、発言の質の変容などを音声・映像記録や振り返りの記述をもとに分析した。印象による分

析にならないよう、子ども達の発言やかかわり方を類型を設定して分類し、その傾向をとらえた。行動や発言が少ない子どもは、一つ一つの言動の質を十分に見極めて、観察を行う。その他に、資料探しなどの行動、振り返りシートの記述内容も分析の対象とした。

発言の類型	
類型	定義
提案	○分析のための吟味における問題点や課題の提案をしている ○改善のための吟味における解決方法の提案をしている。
問い返し	○提案されたことに対し、視点を変えて異議を唱えたり、吟味の観点を提示して吟味を促したりしている。
価値づけ	○他の子の提案内容に付加価値をつける発言をしている。 <該当例> ・提案された内容を言い換えてわかりやすくしている。 ・他の子の提案内容を受けて、ちがうアイデアを付け加えて再提案している。 ・提案に対して賛成や反対の意を示している。
進行	○話し合いの論点整理や話題の確認など、話し合いを進行・調整している。
無言	○発言が極端に少ない、または、発言がない。無言で資料を読み続ける、無言で考え続けるような状態もここに含む。
その他	○上記に該当しないもの

話し合いへのかかわり方の類型	
類型	定義
解決に向けたかかわり	○解決策をよりよくするために資料を調べたり、発言したりして、授業時間のほとんどの時間、話し合いにかかわっている。
無言のかかわり	○発言が少なかったりなかったりするが、資料を調べにいたり、メモを書いたりして、話し合いにかかわる行動が見られる。
自分本位のかかわり	○話題を理解して話し合いに参加したり、違うことをして参加をやめたりする行動が見られ、話し合いへのかかわり方が安定しない。または、友達と一緒に取り組まず、個人で解決しようとする。
かかわらない	○発言が少なかったりなかったりする。資料を調べたり、メモを書いたりすることもなく、話し合いにかかわる行動が見られない。

阻害	○意図的かどうかにかかわらず、解決に向けた話し合いを阻害する発言や行動が多くみられる。
その他	○上記以外の行動や発言

### (6)子ども達の変容

よりよい答えをつくる力については、吟味を重ねる中で、「有効だけど、実現は難しい」「解決策の公共性を高められるし、実現もできる」という解決策としての妥当性を判断する発言が聞こえるようになった。一方で、学習過程が進むにつれて、グループ内で発言がなくなり、無言になり、再び話し合いが始まるというグループも見られた。これは、「分析→改善・決定→新たな問題の分析→改善・決定」という質の異なる吟味を重ねるサイクルの中で、じつ

くり物事を考える必要が出てきたこと、複数の観点から同時に考え、解決策として本当に妥当なのかをより深く考えて答えをつくる力が育ってきたことの表れだといえる。

他者とつくる力については、「○○は、どう？」「△△はいいんじゃない？」など提案をする声と提案に対して「これ実現できるの？」「これをやる意味あるのかな」など、再考を促す問い返しの声が、いくつかのグループから聞こえるようになってきた。提案に対して「本当にこの考えでいいのか」という問い返しが多く見られたグループでは、解決策の変容が大きく変わった。

次に、もととなる解決案から解決策の完成までの変容の様子の一例を示す。

#### クラスA 定住促進グループ4

##### <よりよい答えをつくる力>

##### 子ども達の思考の変容

※網かけ部分は、吟味して定住促進策としての妥当性が高まった部分。

もとの解決案 (第7時)	仮の解決案 (第10時)	完成した解決策 (第12時)
<p>解決案：空き家・空き地なくしちゃう作戦</p> <p>①市の事業の課題 空き家・空き地が多い。作戦で空き家・空き地を少なくし、できるだけ長くいてほしい。</p> <p>②解決案の内容 ・できるだけ多くの人が空き家や空き地を引っ越してこれるように、ある程度見栄えをよくする。</p> <p>③実現に必要なもの 市の人が大工さんに頼む。空き家・空き地を買い取ってくれる人を探す。空き家・空き地の紹介。費用として使う市のお金。</p>	<p>解決策：空き家・空き地なくしちゃう作戦</p> <p>①市の事業の課題 空き家・空き地が多い。作戦で人が来ることで空き家・空き地が減り、市の印象が良くなる。観光客も増え、遊びに来る人が増える。</p> <p>②解決策の内容 ・引っ越したい人やお店を経営したい人に家や土地を借りてもらう。 ・空き家の場合、住んでもらうまで内装や周辺環境(市が道路や生活に便利なもの)を整備する。 ・空き地を借りる場合は、家をつくるときとこわすときに補助金を出す。</p> <p>③実現に必要なもの メディアに伝える手段(広告、SNS)。費用。人材・空き家・空き地。</p>	<p>解決策：空き家・空き地なくしちゃう作戦</p> <p>①市の事業の課題 空き家・空き地が多い。作戦で人が来て空き家・空き地が減る。長く住んでもらうことで市の印象が良くなり、観光で遊びに来る人が増える。</p> <p>②解決策の内容 ・引っ越したい人やお店を経営したい人に家や土地を借りてもらう。 ・空き家の場合、住んでもらうまで内装や周辺の環境づくりをする(市が道路の補強、環境の整備、古い空き家のリフォーム、公園や近くにあると便利なもの) ・空き地を借りる場合、家をつくるときとこわすときに補助金を出す。</p> <p>③実現に必要なもの リフォームや補助金にする費用。人材(清掃や情報発信する人、発信内容を書く人)。メディアで伝える手段(広告、SNS)</p>

このグループは当初、市の問題である空き家・空き地を活用してもらうことで空き家・空き地問題の解消と定住の促進をねらっていた。グループでの話し

合いで、定住者が増えることで空き家・空き地が解消され、それが市の好印象につながるという観光客の増加まで見込んだものに最終的に変容してい

た。観光客の増加は関係人口の増加につながるだけでなく、転入人口の増加にもつながるため、解決策としての必要性の高まりがみられた。有効性の高まりが見られるのは、空き地の利用と空き家周辺の環境整備を考えた点である。空き地を借りて家を建てたい人がいた場合、家を建てる時と壊すときに補助金が出ることは、利用者にとってメリットであるため、有効性が高まる考えだといえる。また、環境整備は、空き家周辺の印象を良くして利用しやすくなることを考えている。しかし、実現可能性は、空き家の周辺環境の整備が「市が道路や生活に便利なものを整備する」という記述に留まり、具体性が出なかった。

このグループの特徴は、話し合いをせず資料を読み込み情報収集の時間をとっていたことと、市役所の方々に自分たちが聞きたいことを質問していた点である。既存の知識だけで考えるのではなく、新たな事例や情報を答えづくりに活用するとともに、自分たちの解決策の裏付けや実効性の確認に使っていた。

以上のことから、解決策としての必要性和有効性が高まった。また、それぞれがよりよい答えをつくるための技能も磨かれたと分析した。

#### <他者とつくる力>

○女は周囲を気にかけて、適宜声をかけて取り組んでいた。意見を求めるときも、「どうやって『家があります』って伝えるんですか？サイトとかなのか、ポスターなのか？」と二択で聞き返すなど、自分の考えがうまく伝えられない子も答えられるよう

	発言の傾向	かかわり方の傾向
N女	提案	解決に向けたかかわり
○女	進行, 提案	解決に向けたかかわり
○男	価値づけ→提案	解決に向けたかかわり
P男	無言	無言のかかわり

に配慮し、解決策に対する考えを引き出そうとしていた。また、○女の問題提起を中心に、N女が提案し、それを検討して決めていく形だったが、次第に○男も資料などを見て自分で提案できるように変わってきた。他のグループに比べると、「それってどうだろう」と吟味を促す投げかけはなく、話し合いはスムーズに進んでいた。子ども達自身、自分たちの話し合いの円滑な様子を自覚しており、以下の

ように述べている。

(N女) 色々な課題が出てきたけどスムーズに話し合いができました。たくさんの課題が出てきたけどどんどん話し合いをしていくうちにとてもいいものにかわっていたんじゃないかと感じています。市の問題は人口が少ない事などで、もっと市に人が来てもらえるようにしっかり考えていこうと思いました。  
 (○女) スムーズに進んでいきました。また、一つ課題をクリアすると、もう1つ課題がでてきて、どんどん楽しくなってきました。…(中略)

多くのグループでよりよい解決策をつくるきっかけとして問い返しが見られた中、このグループは問い返しをする子は見られなかった。しかし、第7時の解決案を選ぶ際に、問題点を指摘する姿も見られたため、他者の意見を吟味していないとは考えにくい。資料を読み込む時間が多いグループだったため、子ども達が友達の提案を自分の読んだ資料などの情報と対比させて妥当性を判断した結果、問い返しがなくとも話し合いが進んだと筆者は考えた。グループ内で改善の方向性やイメージも共有できた状態で、他者と答えをつくれた点で大いに力が高まったと分析した。

## 5. 成果と課題

本研究の成果は、以下の4点である。

### (1)よりよい答えを他者とつくる力を育成する学習過程と力を育成するのに必要な要素を明らかにすることができた。

本研究で、社会に見られる問題の答えをつくるのに必要な要素として、「望ましい解決策の構想」「望ましい解決策の決定」「目的の異なる三つの分析」があることを明らかにした。

そして、よりよい答えをつくる手立てとして吟味を組み込んだ「質の異なる吟味を重ね、よりよい答えを他者とつくる学習過程」を提示することができた。

新学習指導要領では、これからの学校教育が、子ども達を他者と協働して課題を解決したり、様々な情報を見極めて知識の概念的な理解を実現したり、情報を再構成したりするなどして新たな価値につなげていくことができるようにすることを求めている。そして、子ども達にも以下のような期待をかけている。

(中略) …一人一人が、持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている(下線, 筆者)。

この新たな価値を生み出す社会の担い手と筆者の考える「社会にかかわるのに必要な他者とよりよい答えをつくる力」の育成は重なる部分が見られる。このことから、本研究で明らかにした質の異なる吟味を重ねてよりよい答えをつくる学習過程は、これからの予測困難な社会に必要な力を育てる学習のあり方を考える手がかりの一つになると考える。

### (2) 将来の社会参加を志向した社会科授業のあり方を明らかにすることができた。

本研究で明らかにした社会科授業によって、社会参加学習ができない状況下でも、将来社会に見られる問題にかかわるのに必要な力を育てられることを示すことができた。本研究で構想した社会科授業は、①将来、社会にかかわるために必要な考える力を育てることから、地域への提案・参加を行わなくても成立する、②身近な他者である友達と取り組む(他者との協働)ことで地域との協働を必要条件としない、③よりよい答えをつくる力を育てることが目的であるため、地域に見られる問題を早急に解決すべき現在の問題に限定せず、潜在化している問題や将来的な問題まで範囲を広げて教材開発を行える、という社会参加学習の実践上の課題にちよつと、社会参加に必要な解決策を構想する力を育てられるものであると考える。

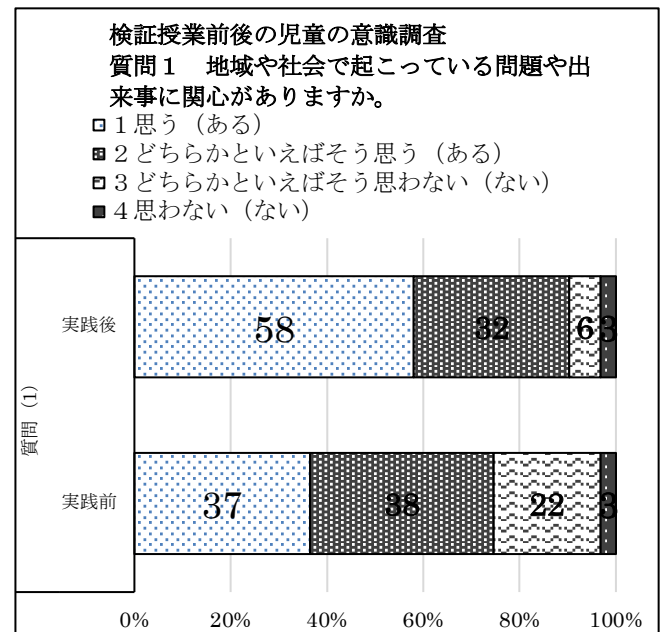
新学習指導要領でも、社会とのかかわりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を位置付けた学習過程を工夫することが求められている。本研究で明らかにした社会科授業は、こうした求めに対する提案の一つになると考える。

### (3) よりよい答えを他者とつくる学習が社会への興味関心を高めることにつながった。

本実践を進めていく中で、地域に見られる問題や社会に見られる問題への関心が高まったことが実践前後の意識調査、単元の振り返りなどから明らかになった。

下のグラフは、検証授業前後に実施した意識調査の結果である(実践前は2018年11月30日、実践

後は2019年1月28日に実施)。質問1は、社会に見られる問題にかかわるために必要な社会的事象への興味や関心のあり方を問うものである。



実践後に「ある」と回答した児童の割合が増え、「どちらかといえばある」と合わせて90%の児童が肯定的な回答を示した。

質問1について、個々の変容に着目したものは、以下の表である。

単位: 人	ポジティブ に変容した 児童	ネガティブ に変容した 児童	変容がなかった児童	
			ポジティブ	ネガティブ
質問1	10	1	46	5

ポジティブな回答に変容した児童が増えていることから、実践を通して関心を高めた児童がいることが分かる。

ネガティブな回答からポジティブな回答に変容したA, B, C児を例に見ると、実践前は問題と自分とのつながりが見えなかったり、問題を遠い先の出来事であるにとらえていたりしたことから関心はなかったが、実践を通して、問題が自分にかかわりのある問題であることが実感できたため、変容したと考えられる。

質問	児童	実践前 (ネガティブ)	実践後 (ポジティブ)
1	A児	たとえ関心があつたとしてもそのことにかかわっていないから関心があつても意味がないと思うから。	社会でどんなことがおこっているかが自分たちに関係があるかもしれないから。



B 児	そんなに早くに社会現象みたいなのは起こらないと思うから。	日高の人口が減ってきていたから。
C 児	社会のことは議員が決めることだと思うから。	日高市で起こっていることを知ることは市民として大切なことだと思うから。

なお、変容がなかった児童は、「授業はやるけど、それ以外は興味がないから。」「あまりニュースを見ないから」と実践後の聞き取りで回答した。学習を通して、社会への関心を広げる一層の努力が必要であると感じた。

以上のことから、社会に見られる問題のよりよい答えをつくる社会科授業は、答えをつくる力の育成だけでなく、社会への興味や関心を広げ高めるといった側面もあり、今後も実施していく必要性は高いと考える。

#### (4)グループ活動における個人の力の伸びの過程を評価する方法を明らかにできた。

新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることが示された。その中で、1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、学習内容や時間のまとまりの中で実現を図るようにすることが留意点としてあげられている。このことは子ども達の学びの深まりは学習を重ねていく中で徐々に進むことを示すとともに、学びの深まりが実現されたかを評価するには、学習のプロセスを継続的に評価する必要性が一層増すことを示しているととらえられる。今回の研究で変容を分析する方法として用いた、各グループへのビデオやICレコーダーの設置は、子ども達が吟味を重ねる実態を思考と行動の両面から分析するのに有効だった。ワークシートだけでは評価することができなかった思考の過程を行動と関連させてとして観察することができた。

## 6. 本研究の課題

本研究における課題は、以下の3点である。

### (1)資料収集の視点の明示と学習過程への位置付け

学習過程の中に資料収集活動を位置付ける必要がある。質の異なる吟味を重ねて解決策の問題点を分析し、妥当な解決策として改善する力が育った一方で、その根拠とする知識や情報が生活経験や既習事項に基づく傾向が見られたためである。解決策としての妥当性をさらに高いものにするに

は、自分たちが知っていることだけで考えていくには限界があり、資料を通して情報や知識を得る必要がある。

膨大な事例の中から必要な情報を効率的に収集する手段としては、インターネットが有効である。ただし、課題解決に資する資料を選び取る視点と自分の調べたい検索ワードを入力する技能の習得も必要である。指導方法について今後検討する必要がある。

### (2)よりよい答えをつくるための妥当性の観点の研究

吟味の観点同士の違いの明確化、定義の見直しが必要である。例えば、有効性の「解決策として効果が高いか」という定義と、公共性の「より多くの人に役立つか」という定義は、効果の是非を問う点で似ている。また、公共性については、これまで利用できなかった人たちが利用できるようになるという量の高まりと、多くの人ができるものが充実するという質の高まりの2つがあり、1つの観点の中に複数の性質があるという問題も見えてきた。

吟味の目的によって観定の定義が変わるという問題もある。実現可能性を例にとると、改善のための吟味では、自分の考えた改善方法が実社会で具現化できるかどうかという点で吟味することになる。しかし、決定のための吟味では、自分たちの市の財政状況や地理的環境で実現することができるかという現実的な面を強調してみる必要がある。

### (3)他者とよりよい答えをつくる学習に適した教材開発

構想した学習過程の実効性や課題を検証するには、他の学年での実践も必要である。各学年、別の単元でどのような社会に見られる問題が教材として考えられるか、どのような問題が学習に適しているのか、今後も検討が必要である。

## 【引用・参考文献】

- ・桐谷正信「グローバル社会における多文化的社会科教育」日本社会科教育学会編『社会科教育研究』No.134 (2018)
- ・唐木清志『子どもの社会参加と社会科教育—日本型サービス・ラーニングの構想—』東洋館出版社 (2008)
- ・唐木清志・西村公孝・藤原孝章『社会参画と社会科教育の創造』学文社 (2010)
- ・日高市企画財政部企画課編『日高市まち・ひと・

本稿は、平成30年度埼玉県長期研修教員として  
埼玉大学桐谷正信研究室での研修成果、日高市立高  
麗川小学校での検証授業の結果をもとにまとめたも  
のである。